



地域づくりニュース H28 Vol.1

会津若松建設事務所では、県道で交通不能区間となっている旧街道（越後街道）を整備・利活用し、地域の活性化に繋げることを目的として、街道修繕の道普請を行っております。平成23年度から峠道の補修を開始し今年で6年目を迎え、安全で歩きやすい道に整備されてきました。

初夏にウォーキング大会が開催されたり、学校行事に東松峠のウォーキングを取り入れていただくなど、利活用していただく機会も少しずつ増えております。今後、東松峠を活用した取り組みをより活発な活動にしていくためには、他の地域の活動団体との連携も大切になってきます。越後街道を活用した取り組みを実施している、にしあいづ観光交流協会からもご参加をいただき、第1回東松峠地域づくり検討会を開催しました。

### 第1回「歩く県道（東松峠）」地域づくり検討会開催概要

- 日 時● 平成28年8月10日（水）15時00分～17時00分  
東松振興センターにて
- 参加者● 東松峠を護る会、高寺地区地域づくり協議会、東北芸術工科大学教員、田賀意匠事務所、にしあいづ観光交流協会、会津坂下町、福島県会津若松建設事務所 合計16名
- 議 題● ○現地調査の結果と今年度の道普請について  
○今年度のスケジュールについて



### 現地調査の結果について

前年度までに施工した構造物の経年変化や雪解け後の道の状況等について、5月に現地調査を実施しました。今回は、その結果を基に、今年度の道普請実施箇所と施工方法について検討しました。

現地調査の結果、道普請で整備した沢止工や階段落差工等の構造物は、概ね安定した状況を維持していました。山側側溝や横断側溝が機能して、ぬかるみも改善されており、石積や丸太で土留した路肩も安定していましたが、中には粗朶柵工の杭の傾きが年々進行していたり、側溝に土砂が堆積している箇所もあったことから、要経過観察とし、杭の傾きの修正や粗朶の編み直し、側溝内の堆積物の撤去等、必要に応じて対策を講じてまいります。

丸太土留工を施工  
（平成23年度）



安定した道路状況を保ちつつ、自然環境とも調和が取れています。

横断側溝・山側側溝を施工  
（平成24年度）



排水効果が高まり、ぬかるみは改善されていますが、山側側溝に堆積した土砂の排除が必要です。

石積工を施工  
（平成25年度）



生育した草と石積みとが絡み合い、施工当初より頑丈な状態になっています。

階段落差工を施工  
（平成27年度）



丸太がしっかりと固定され、降雨時でも安全に歩けます。軽トラックが通れるように段差を小さくしたいとの意見もあります。

## 今年度の道普請について

今年度は洞門前広場の環境整備と手前にある沢止工の補修、峠の茶屋に向かう道で三差路から少し登った所の岩盤が露頭し降雨時に滑りやすい箇所、昨年度施工した丸太階段工の補修を行うこととなりました。峠の茶屋に向かう道は、訪れる人が多く整備の必要性が高いため、昨年度に引き続き会津坂下町役場と補修作業を行います。

## 検討会での主な意見をご紹介します

### 施工方法に関すること

- 洞門前の広場は、洞門入口までの道の線形が分かるように、昨年度施工した土塁から、さらに10mから20m程度延伸し、腰をおろしてくつろげるようにする。
- 広場が湿った環境にあるので、洞門入口から広場手前の既設の横断側溝までの間に土側溝を整備し、谷側に排水することでぬかるみを改善する。
- 洞門入口と掘削した土側溝に沿うように丸太列柱杭を設置して境を作り、視認性を高めるとともに、洞門の中に入らないように注意喚起したい。
- 沢止工周辺に浸食防止のため設置している土のう袋を撤去し、石積工を施工することで景観を良くしたい。
- 岩が露頭して降雨時にすべりやすい箇所は、丸太を一定間隔で配置し、丸太の上から鉄筋を打ち込んで固定する階段落差工を施工して歩きやすくする。
- 昨年度階段工を施工した箇所については、砂利を充填し段差を今よりも小さくしたい。

洞門前広場の様子



土塁を延伸するための基礎部分は昨年度施工済みです。

黒いビニール製の土のう袋が積まれている沢止工



自然素材の石を利用することで、周囲の環境に馴染ませます。

### 東松峠の活用の仕方等に関すること

- 峠道の整備は現状維持を基本とし、東松峠をこれからどう利用していくかを検討した上で、補修を進めた方がよい。
- 昔からある物を維持していくためには、積極的に地形を維持するという姿勢も必要である。石や丸太などの自然素材を利用するため、施工して自然環境にそぐわなかったり不具合が生じた場合は、施工し直すこともできる。
- 東松峠の活用について意識を共有し、若い人をはじめとして参加者を増やすための仕組み作りについても考える必要がある。次回以降の検討会で話し合っていきたい。

## 今年度のスケジュールについて

平成28年10月8日(土)・9日(日)に道普請を実施します。その後、11月下旬と2月中旬に検討会を開催し、道普請の検証や東松峠を活用した地域づくりについて話合う予定です。

今年度も、「東松峠を護る会」をはじめとした地域住民の方々や一般ボランティア、東北芸術工科大学の学生・教員、関係自治体のみなさんと一緒に汗を流し、今後の地域づくりの進め方について議論をしていきたいと思っております。

越後街道を利活用した取り組みは西会津町や新潟県においても実施されています。にしあいづ観光交流協会が主催者となって、新潟県の新発田城から会津若松市の鶴ヶ城までの総延長約100kmを歩く「会津街道探索ウォーク」が開催されており、定員を上回る参加の申込みがあるとのこと。なるべく多くの文化財を巡れるように1日の歩く距離を短縮したり、集落ごとにガイドをお願いしリレー形式で繋ぐなど、様々な工夫をされています。今後、地域の活性化に繋げるために、峠道を活かした取り組みの連携についても検討したいと思っております。



昨年度の道普請の様子

ご意見・お問い合わせは



福島県会津若松建設事務所 企画調査課

TEL 0242-29-5455 FAX 0242-29-5459